

Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

2024年7月27日(土) ~ 28日

BRIDGESTONE

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE

第3戦 スーパー耐久レース in オートポリス 5時間レース オートポリス (大分県日田市)

得意のピット戦略で逆転し今季2勝目

第3戦のレース距離は5時間。Green Brave から山崎、吉田、服部、野中の4選手が出場しました。予選日(土曜日)の天候は晴。予選はA、B両ドライバーの合算タイムで争われ、Aドライバーのジェントルマンドライバー山崎選手が予選開始の合図とともにコースイン。2周目にライバル#885GR Supraのタイムを上回る1分58秒509をマークし、2位につきました。Bドライバーの予選では、吉田選手が残り5分でコースイン。2周目に1分56秒681をマークし、順位は2位。A、B両ドライバーの合算タイムにより、予選2位を獲得しました。GR Supraにはクラス最大、45kgのウェイトハンデが搭載されていますが、GR Supra最上位につけており、順調な初日になりました。

決勝日(日曜日)の天候は晴。5時間の決勝レース中、3回のドライバー交代を伴うピットイン義務があるため、チームはタイヤ無交換を含めた4ステント作戦を立案。スタートドライバーに吉田選手を起用し、山崎、服部、野中とつなぐ作戦です。11時04分、決勝レースがスタート。吉田選手はポジションをキープし、#26Zに次ぐ2位でオープニングラップを終えます。#26Zのペースは速く、2台の差は少しずつ拡大しますが、吉田選手も踏ん張り、1~2秒差で周回。後方からは#20Zが追い上げており、25周目にはテールトゥノーズとなります。しかし、30周目の1コーナー手前で吉田選手と#20Zが接触。#20Zはクラッシュしてストップしており、すぐにセーフティカー(SC)が導入されます。GR Supraにダメージはなく、31周目の終わりにピットへ。山崎選手に交代し、給油とタイヤ交換を終え、#26Zに次ぐ2位でコースに復帰します。なお、2台の接触はレーシングアクシデントと判定されており、ペナルティはありません。

38周目からレース再開。山崎選手は同じジェントルマンが乗る#26Zを追走します。予定より早いタイミングでの交代となりましたが、チームはタイヤ無交換作戦を実行するために山崎選手にロングランを指示。67周目の終わりに#26Zが2回目のピットインを行い、山崎選手はトップに立ちますが、走行を続けます。チームの指示通り、最多の49周を走破し、80周目の終わりにピットイン。服部選手に交代し、給油とタイヤ交換を行い、再スタートをきります。コースに復帰した服部選手の順位は2位。トップは#26Zでその差は約38秒、3位は#885GR Supraで、1分57秒差です。フレッシュタイヤを履いた服部選手は#26Zを猛追。周回を重ねる毎にギャップを削ぎ、99周目には当初の半分、19秒差まで接近します。102周目の終わりに服部選手がピットイン。野中選手に交代し、作戦通りタイヤ無交換、給油のみの作業でピットアウトします。コースに復帰した野中選手の順位は2位。トップの#26Zとは1分半ほどの差がついていますが、ピットイン義務を残しており、野中選手に有利な状況です。107周目の終わりに#26Zがピットイン。これにより、今度は野中選手が23秒差をつけ、トップへ。野中選手は摩耗の進むタイヤをマネジメントしながら走行。一時は#26Zが野中選手との差を詰めますが、残り30分ぐらいから野中選手が再びリードを広げていきます。野中選手は約80分のステントを無事に走り切り、待望のトップチェッカー。スタッフ全員の活躍により、今季2勝目を獲得。ランキング2位の#885GR Supraに大きなリードをつけることができました。

決勝結果 (ST-Zクラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

(山崎 学/吉田広樹/服部尚貴/野中誠太)

決勝: 1位 (143周、5時間01分18秒360)

予選: 2位 (合算タイム: 3分55秒190)



DRIVERS VOICE

山崎 学選手

予定より早いピットインになりましたが、想定内のタイミングで、スタート直後からいつでも行ける準備をしていました。自分の走行時は、ジェントルマンとプロがごちゃ混ぜになった状態だったので、わずかでも離されないように一生懸命ついていこうと思って走りました。ぼくが乗っていた時間は路面温度が高く、その影響もあったのですが、クルマは終始快調でした。ST-Z クラスはライバルが本当に強力なので、毎戦毎戦、全力でやれることをやるしかありません。これからもベスト尽くして戦っていきます。

吉田広樹選手

レース中の接触は余計だと思うし、相手のクルマも結構壊れてしまいました。レーシングアクシデントになったとはいえ、相手に申し訳ないという気持ちもあります。相手のドライバーや監督さんとかと話ができて、すっきりしているのですが、ケガがなくて良かったというのが本心です。前にいた#26Zに離されなかったのも、そういう意味では少し余裕がありました。チームのみんながフォローしてくれて、最高の結果で終わって良かったと思います。

服部尚貴選手

吉田の時間帯に思ったより離されませんでしたね。あと、レース中に#20Zと接触があり、心配したのですが、レーシングアクシデントということ、うちのクルマは何も壊れなかったので、そういう意味では本当にラッキーでした。メカニックも含めて全員が100%の力を出し切った結果なので、一番価値のあるレースだと思います。今回の5時間レース、ウェイトを搭載することになり、なかなかきつかったのですが、力を合わせて優勝を勝ち取れました。次回も応援よろしくお願いします。

野中誠太選手

4番目にタイヤ無交換でコースに出ていきました。ギャンブル的な部分もありましたが、#26Zを最後まで引き離すことができ、いい内容のレースでした。ぼくのペースは予想よりも良く、タイヤのグリップも最後まで安定していました。暑さ対策を含め、クルマは本当に乗りやすかったので、集中して走ることができました。今まで通りのパフォーマンスを発揮できれば、今年もチャンピオン十分に狙える位置にいると思いますので、これからも落ち着いて進めていければと思います。

ST-Z クラス決勝結果

1位：埼玉 GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra)	143周
2位：raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z GT4)	143周
3位：マッハ車検 GR Supra GT4 EVO (トヨタ GR Supra)	142周
4位：Hitotsuyama Mercedes-AMG GT4 (メルセデス AMG GT4)	141周
5位：シェイドレーシング GR SUPRA GT4 EVO (トヨタ GR Supra)	141周
6位：BRP★FUNDINNO PORSCHE 718 GT4 RS (ポルシェ 718ケイマン GT4 RS)	141周

出走 11 台 トップ 6 まで

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	52	埼玉 Green Brave	55
2位	885	SHADE RACING	●
3位	26	TEAM ZEROONE	●
4位	19	Birth Racing Project【BRP】	●
5位	26	Hitotsuyama Racing	●
6位	22	Porsche Team EBI	●

上位 6 位まで

第4戦 9月7日 モビリティリゾートもてぎ (栃木県茂木町)

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



株式会社アース・コーポレーション



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



東京麒麟ビバレッジサービス株式会社



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



有限会社 MY CARS



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リビコー